

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年8月24日（月）～令和2年8月30日（日）〔令和2年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。

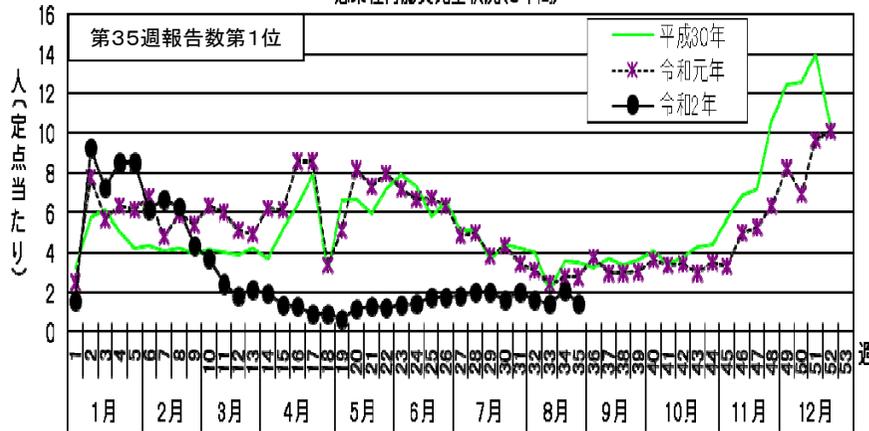
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.43人と前週（2.08人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.81人と前週（0.57人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

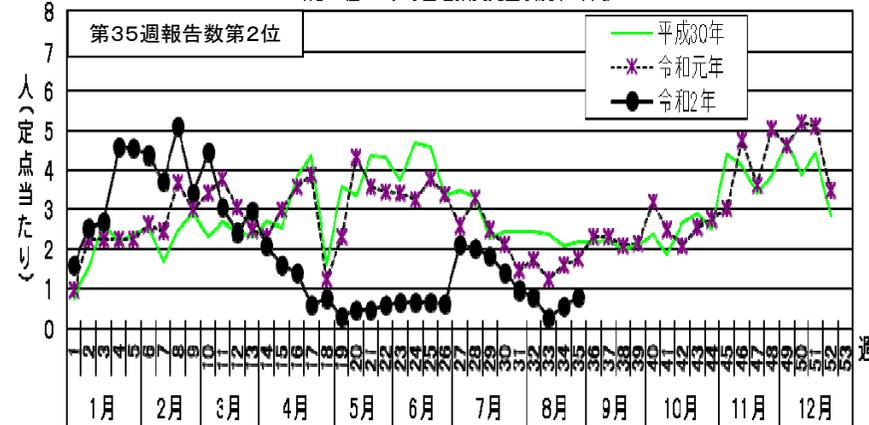
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.68人と前週（0.54人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

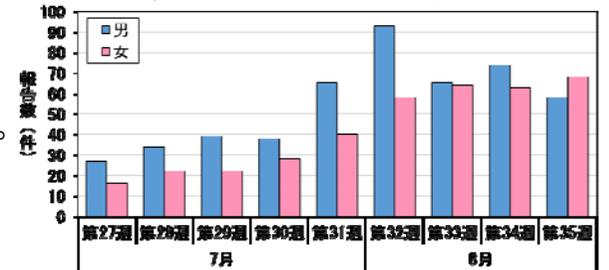


新型コロナウイルス感染症の市内発生状況 - 令和2年7月～8月 -

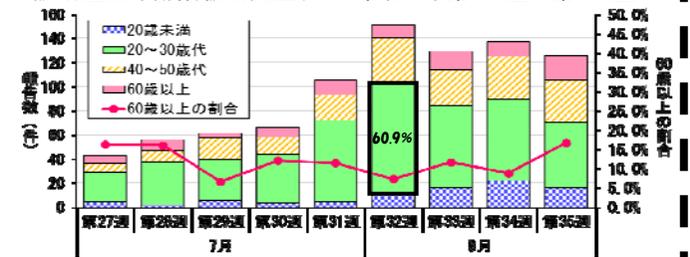
川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は7月以降増加し、令和2年第32週（8月3日～8月9日）に151件と最多になりました。その後は、徐々に減少がみられるものの、第35週（8月24日～8月30日）は126件と依然として100件以上の報告があります。

流行のピークであった第32週は男性の割合が61.6%と高く、同時期の20～30歳代の割合も60.9%と半数以上を占めました。第33週以降は明らかな男女差はみられませんが、第35週は60歳以上が16.7%と徐々に増加しています。重症化リスクの高い高齢者に感染させないために、御家庭でも十分注意しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別男女別発生状況(令和2年第27週～第35週)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別年齢階級別発生状況(令和2年第27週～第35週)



- 体調が悪い場合は、軽めの症状でも仕事や学校を休みましょう。
- 発熱や咳などの症状がみられる場合は、重症化リスクの高い高齢者との接触は避けましょう。
- 御家庭内では、手洗いなど手指衛生を徹底しましょう。